

実践Ⅲ

—中上級の指導法—

○中上級のレベルとは

定義は、はっきりとしていない。中級と上級の差もあいまい。

旧日本語能力試験による各項目のレベル設定（2010年から新形式—出題基準は非公開）

新試験	旧試験	漢字	語彙	学習時間	レベル	CEFR（参照枠）
N5	4級				初級前半	
N4	3級				初級後半	
N3					初中級	
N2	2級				中級	
N1	1級				上級	

○中級学習者の悩み、問題点

- ・周囲の日本人が不親切になる。
- ・体系的な教育が行われなくなる。
- ・進歩の実感が得られない。（プラトー状態）
- ・四技能の差が更に開く。

○中級学習者の教育で考えること

- ・中級学習者は、すでに初級文法や基本語彙を習得していることを前提に。
（学習者にはそれなりのプライドがある。）
- ・学習目的に適合した学習内容が要求される。
サバイバルジャパニーズ⇒アカデミックジャパニーズ/ビジネスジャパニーズ
- ・生教材による教育が歓迎される。
- ・学習活動を学習者のニーズに近付ける。
- ・目標言語の文化理解が更に要求される。
- ・学習者自身による自律学習（オートノミー）やピア活動による協同学習が求められる。
（教師は教授者という立場からファシリテーターとしての役割が求められる。）

○四技能それぞれの指導について

四技能の比重が、（初級）“聞く、話す”から（中上級）“読む、書く”へ。

具体的な事柄から抽象的な事柄へ。

◎“聞くこと”の指導

初 級：一語、一語を正確に聞きとり（特に数字）、確実に意味を捉える。

（授受表現は難しい。）

中上級：わからない言葉があっても、前後の文脈から意味を類推し、大意を把握する。

必要な情報だけを、聞き取る。（スキミングとスキヤニングの技術の養成）

抽象的な言葉の理解には、漢字の知識が不可欠。カタカナ語も増える。

1対1の会話→複数の人の会話。

はっきりしない音声や、雑音等条件が悪い中での会話やスピーチを聞き取る。

話し言葉（縮約形等）、省略、倒置等。

ラジオ、テレビのニュースや解説、ドラマ、歌等の生教材を使用していく。

◎“話すこと”の指導(*日本語教育の参照枠では「やりとり」と「発表」を別の技能として扱っている)

初 級：発音、アクセント、拍（特に特殊拍）、イントネーションに注意。

文法的に正確に話す。(オーディオ・リカル法による口頭ドリルでの練習)

簡単な談話で意思疎通できる。(ロールプレイ等での練習)

定型会話での応答練習が中心。

中上級：(意思の疎通に支障がないかぎり) 個々の発音にはあまりこだわらない。

日本語らしいイントネーション、滑らかな発話を目指す。

(リピートイング、オーバーラッピング、シャドーイング、ラギングの練習)

表現文型を取り入れ、事実だけでなく、話者の心情が的確に表現できる。

定型会話から自由会話へ。単なる応答から談話(ディスコース)へ。

伝達戦略(コミュニケーション・ストラテジー)を用いて、方策がたてられる。

コミュニケーション能力の養成。(ディスカッション、シミュレーション、プロジェクトワーク、ドラマ、ディベート、スピーチ、プレゼンテーション等)人を惹き付ける話し方。

日本文化にのっとった会話運び。(日本語的な相槌、応答等。)

使用場面に応じた会話。(ビジネス会話 ◎待遇表現)

接続詞等を用いて、まとまった単位の会話や意見を論理的に話すことができる。

◎“読むこと”の指導

<中級読解指導の目的>

1. 漢字の学習：学習漢字数を増やし、新しい熟語を学ぶ。
2. 語彙の学習：多義語に注意。漢字学習とは切り離せない。
3. 書き言葉の学習：文語的表現や文法を学習する。
4. 長文理解の学習：長い文章や物語を理解する練習。
5. 要約の学習：文章から得た情報を、口頭または、文章で要約する練習。

初 級：理解語彙＝使用語彙、理解漢字＝使用漢字（書いて覚える）、

理解文型＝使用文型（基本的な構造文型中心）

発音、イントネーション、切りどころに注意。必ず音読すること。

書かれていることを正確に理解する。(精読) ⇒ ボトムアップ処理 (データ駆動型処理)

中 級：分かち書きがなくなる。ルビも新出語にしか振っていない。

縦書きにも徐々に慣らしていく。

明朝体をはじめ、いろいろな書体でも読めること。

前半は、初級の復習の比重が高い。生教材を加工したものを取り入れていく。

後半から、生教材（新聞等）が使える。

内容は、日本事情（日本の社会、地理、経済、文化等）を含む一般的なもの。

文章の種類（会話文、日記文、手紙文、紀行文、論説文、評論、グラフ等）や目的に

応じた文体の使い分け。(です・ます体、だ体、である体等。)

理解語彙>使用語彙、理解漢字>使用漢字(学習ポイントが文字→意味)、

理解文型>使用文型(+表現文型、新文型、拡大・複合文型)

複合動詞、副詞、接続詞、指示語(眼前指示→文脈指示)、類義語等。

文語的表現が増える。諺、慣用句、修辭的表現、婉曲表現の理解。文化背景の理解。

言葉の位相・レベル(性差、年齢差、地域差、社会的地位、使用場面等による)の理解。

破格の文(倒置、省略、縮約形等)。

黙読に慣れること。精読から速読へ。⇒トップダウン処理(概念駆動型処理)

目的に応じた読み方(スキャン・リーディング v s . スキム・リーディング)

→情報獲得技術の向上

上 級:より専門的な内容。学習者の専門分野、評論文、小説、詩、文語文、古典等。

<読解用生教材使用上の困難点>

- ・固有名詞や外来語
- ・語句の省略。(特に新聞の見出し、外相、UN、体言止め、助詞止め等)
- ・オノマトペ(擬音語、擬声語、擬態語)。
- ・複雑な構文の長文(修飾語と被修飾語の関係等)。一文が長すぎる。
- ・いわゆる悪文(文のねじれ、主語、目的語の欠落等)
- ・これ、それ、あれ等の指示語(文脈指示)が具体的には何を指すか。
- ・文化、社会的背景の知識が必要なもの。思考方法、発想の相違
- ・時事的なものはすぐに古くなり、使えなくなる。
- ・文の欠落(採用の際の原文の省略)。
- ・文と文の間に説明が省略されているもの(文学作品に多い表現)。

<読解ストラテジー>

より効率的に読解を進めるためのストラテジーの例。これは、母語では、無意識にやっていること。

- ・題や見出しから連想し、記憶の中の概念と結びつける。(スキーマの活性化)
(出典、著者もヒントになる。)
- ・大意を素早くつかむ。結論は通常最後(まれに最初)にある。
- ・キーワードを見つける。キーワードはテキスト中に繰り返し現れる。
- ・トピックセンテンスを見つける。トピックセンテンスは、段落の最初か最後を探せば見つかることが多い。
- ・段落のまとめりごとに大意を要約しながら読む。(見出しをつける)
- ・今読んでいる部分が全体や前の部分とどのような関係にあるかを考えながら読む。
(序論・前置き、本論、結論、具体例、反論…)
- ・接続詞(順接、逆接)や、「つまり」等の言い換えの表現に注意する。
- ・強調の表現(「こそ」等)に注意する。
- ・テキストに書かれている情報だけでは理解しにくい場合には、推測する。
- ・知らない語句や漢字は、前後の文脈や字形から意味を推測する。
⇒重要な語句について、その推測が失敗であったことが明らかになったり、
どうしてもわからなかったりした場合には辞書を引いて意味を確認する。
(未習語を逐一辞書で調べない)

- ・重要な情報にアンダーラインや印をつけて強調する（ハイライティング）。
- ・指示語が指すものに矢印をつける。
- ・要点をメモしながら読む。
- ・事実と登場人物の意見、筆者の意見とを区別する。
- ・設問がある場合は、先に設問や選択肢に目を通しておく。 等

◎“書くこと”の指導

初 級：漢字→理解漢字＝使用漢字

短文の作文、文法的な正確さが要求される。

ディクテーション。

原稿用紙を使って書く。

中上級：漢字→理解漢字と使用漢字の区別。

語彙のレベル（書き言葉、話し言葉等）の知識。

手紙、レポート、ビジネス文書（含メール）等の一定の書式があるもの。

日本語作文の構成（起承転結）。段落。論理的な文章構成。

作文（中級）から、論文（上級）へ。文学的センスの加味。

日本語ワープロでの文書作成。

ピア・レスポンスによる作文指導。

◎『テーマ別 中級から学ぶ日本語』の進め方例

- ・ **新しい言葉**：学習者が予習として下調べしてくることが前提。教師がモデル発話し、発音や漢字の読みを確認する。意味の導入はせず、確認・補足説明を行い、語彙を広げる。
 - ・ **いっしょに考えましょう**：課のテーマに入りやすくするために、スキーマの活性化を行う。
 - ・ **読みましょう①**（大意把握）：テキスト部の音声聞いた後、もしくは黙読の後、大まかな内容（キーワード、テーマ、著者の主張等）を理解したことを確認する。
 - ・ **答えましょう①**：詳しい説明を聞く前に、自力でどこまで理解できたか試してみる。答えがテキストのどこにあるか探すだけでなく、文字化するとよい。宿題にすることが多い。
 - ・ **使いましょう**：文型文法の練習。本文テキストの精読に入る前に運用練習まで行う場合とテキスト理解のための意味の説明に留めて、精読後に運用練習を行う場合がある。
 - ・ **読みましょう②**（精読）：教師の範読の後、音読を行う、語彙、文法の細かい確認から、内容の読解を行い、著者の主張を理解する。理解を確認した後、音読練習を行う。
 - ・ **答えましょう②**：精読後に確認する。質問の形に合わせて答えること。適宜、板書させて確認する。
 - ・ **まとめましょう**：テキストの設問に沿って、内容をまとめたり、原稿用紙を使って文字制限をして要約文を書いたりする。口頭発表させることもある。
 - ・ **話しましょう**：グループで討論したり、作文にまとめたりして、自分の意見が発表できるようにする。
-
- ・ **漢字を練習しましょう**：読み書きの指導を行う漢字（A）と読みだけの指導を行う漢字（B）がある。指導のタイミングは新しい言葉を学習した後か、テキストを一通り学習した後に、オリジナルプリントで練習することが多い。通常、漢字テストは課のテスト（読解、語彙、文法等）とは別に行う。

3 認定の目安

各レベルの認定の目安は下のとおりです。認定の目安を「読む」、「聞く」という言語行動で表しています。それぞれのレベルには、それぞれの言語行動を実現するための言語知識が必要です。

レベル	認定の目安
N1	<p>幅広い場面で使われる日本語を理解することができる</p> <p>読む ・幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。</p> <p>・さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。</p> <p>聞く ・幅広い場面において自然なスピードの、まとまりのある会話やニュース、講義を聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係や内容の論理構成などを詳細に理解したり、要旨を把握したりすることができる。</p>
	<p>日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる</p> <p>読む ・幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。</p> <p>・一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。</p> <p>聞く ・日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりすることができる。</p>
N3	<p>日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる</p> <p>読む ・日常的な話題について書かれた具体的な内容を表す文章を、読んで理解することができる。</p> <p>・新聞の見出しなどから情報の概要をつかむことができる。</p> <p>・日常的な場面で目にする難易度がやや高い文章は、言い換え表現が与えられれば、要旨を理解することができる。</p> <p>聞く ・日常的な場面で、やや自然に近いスピードのまとまりのある会話を聞いて、話の具体的な内容を登場人物の関係などとあわせてほぼ理解できる。</p>
N4	<p>基本的な日本語を理解することができる</p> <p>読む ・基本的な語彙や漢字を使って書かれた日常生活の中でも身近な話題の文章を、読んで理解することができる。</p> <p>聞く ・日常的な場面で、ややゆっくりと話される会話であれば、内容がほぼ理解できる。</p>
N5	<p>基本的な日本語をある程度理解することができる</p> <p>読む ・ひらがなやカタカナ、日常生活で用いられる基本的な漢字で書かれた定型的な文句や文、文章を読んで理解することができる。</p> <p>聞く ・教室や、身の回りなど、日常生活の中でもよく出会う場面で、ゆっくり話される短い会話であれば、必要な情報を聞き取ることができる。</p>



旧1級 (上級)

旧2級 (中級)

旧3級 (初級後半)

旧4級 (初級前半)



読んでみましょう

どっちが大切

小学校で英語を教えることには、いろいろな意見があります。日本には英語が話せる人が少ない。早くから勉強しておけば、仕事で英語を使う場面になっても、それができるようになる。そう考える人たちは、子供のときから英語を始めることが大切だと言います。そして、英語といっしょにちがう文化も学んで、ものの見方を広げることも大切だと言います。 5

そうではない。英語を教える前に、まず日本語だ。日本語で正しく話したり、書いたりできなくてはいけない。言葉がどんなものか、言葉を使って相手にわかってもらえるように、自分の言いたいことを言ったり書いたりするのはどうすればいいか、初めにそれを日本語で学んでおかなければ、英語も正しく学べない。小学校から英語を教えると、日本語も英語もできなくなつてしまうと心配する意見もあります。 10

いろいろな意見がありますが、それでも、日本では、小学校から英語のじゅぎょうが始められることになりました。大切なことは、子供たちが英語の勉強を楽しみにして、勉強しようと思自分から思うことです。親がいろいろ考えて、勉強したくない子供に勉強させ、英語がきらいな子供が出てくるようなことになれば、小学校で英語を勉強することには意味がなくなるでしょう。 15

I. 上の文を読んで、正しいと思う文に○をつけてください。

1. () 日本には英語を使える人がたくさんいる。
2. () 英語の勉強は早くから始めなければならないという意見がある。
3. () 英語を学べば、ものの見方を広げることになるという意見がある。
4. () 日本語ができなければ、英語もできないという心配もある。
5. () 子供が自分から勉強しようと思うことが大切だ。
6. () 英語がきらいな子供がおおぜいいるので、英語の勉強は意味がない。